

たつの市臨時記者発表資料	
発表年月日	平成31年4月17日(水)
担当課	教育事業部歴史文化財課 龍野歴史文化資料館
電話	0791-63-0907

報道機関各位

新発見 青年期の三木露風が同窓にあてた書簡

三木露風がたつなの同窓に宛てた下記の内容の書簡が発見されましたので発表いたします。

記

- 資料名 露風から村田詩泉あての書簡 2通
 - ・1通：葉書（明治38年2月11日到着印）
 - ・手紙（6枚。5枚目欠）（明治39年カ）11月16日
 - ・短冊1通
- 公開 ロビー展「龍野と露風」にて公開
期間：4月27日(土)～6月2日(日)
- 発見の経緯 発見されたのは村田俊哉家(新宮町平野。現在は姫路市へ転居)。龍野藩士であった村田家は明治期に新宮町に転居。高齢のため蔵を整理する中で、藩士時代の古文書や具足が発見された(現在整理中)。大量の古文書の他に、机の引き出しから書簡・短冊が見つかる。
- 内容 **【葉書】**
閑谷学校へ転入後のもの。時候のあいさつや近況報告について、与謝野晶子の「恋ごろも」の詩集について感想を述べる。
周辺の友人の進路に触れ、「早く僕も出たいなあ」と伝えている。
【手紙】
400字原稿用紙6枚(5枚目欠)。東京へ上京して数か月を経たころに出された手紙と思われる。
 - ・同窓からの便りがなくなり、対して「友人の冷淡なる真実に水の如く」と嘆く。
 - ・自らの境遇を「生まれて性狷介孤峭人に拗ね世に拗ね」と例え、「龍野中学に在って不平兒の名をなした昔が恋しい」と懐かしむ。
 - ・自らの進む道に対して「僕は遂に文壇の人として死ぬ可き事を君に茲に誓って置く」と決意を表す。
 - ・詩泉が軍歌を依頼していたようで、それに対して「強いて書けといふなら書くが碌なもの出来ないよ」と返事。**【短冊】**
詩泉君の賜りし歌のかへし
榮ありというな夕の野路遠く
詩に迷ひて尋ね行く吾れ 三木露風

★内容から

- ・手紙の宛所である村田詩泉についての詳細は不明。資料が伝わった村田俊哉氏の祖父が明治13年生まれで手紙に言う「兄上」にあたる人物と推察される。手紙には兄上、母上様によろしくと書かれていることもあり、家族ぐるみの交流をうかがわせる。＊村田達次郎は大正12～昭和6年まで小宅小学校長を務める。
- ・若くして天才詩人といわれ、白露時代と称される詩壇会に名をはせた露風。2つの手紙には、閑谷学校、早稲田大学での活発な活動に触れられているが、同時に若者らしい不安なども書かれており、青年期の露風の人となり、露風にとってのふるさとの友人やふるさとへの思いをうかがうことができる貴重な資料。

5. 取材について

取材については、本日より対応させていただきます。

【参考 三木露風 略年譜】 霞城館図録『露風と碧川かた』参照

西暦	年号	年齢	事歴
1889	明治 22	0	6月23日、兵庫県揖保郡（現、たつの市）龍野町上霞城百老番地で出生。操と命名。父節次郎と母かたの長男として生まれる。
1893	26	4	町立龍野幼稚園に入園。かたの実家圓覚寺で説教に耳を傾ける。
1895	28	6	両親が離婚。母かたは、弟勉を連れて鳥取に帰る。祖父三木制のもとで養育される。
1899	32	10	伊水（のち龍野）高等小学校に入学。山川の自然に親しみ、文芸雑誌へ投稿する。
1901	34	12	句作をはじめ。謄写版刷りの雑誌「少園」をつくる。
1903	36	14	県立龍野中学に首席で入学。翌年私立中学閑谷巒に転学して創作にふける。38年に中退し、詩歌集「夏姫」を自費出版して上京する。
1909	42	20	詩集『廃園』を刊行し、永井荷風が激賞する。翌年『寂しき曙』刊行。この年の前後に、早稲田大学と慶応大学に学ぶ。
1913	大正 2	24	これより大正期にかけて、『白き手の獵人』『幻の田園』他数冊の詩集を刊行し、北原白秋と並んで、詩壇の双璧と称される。
1914	3	25	栗山なかと結婚。山田耕筰と初めて対面。
1920	9	31	北海道トラピスト修道院に講師として赴任し、4年間勤め、作詩に宗教色強まる。
1921	10	32	童謡集『真珠島』を刊行して童謡の興隆に尽す。
1922	11	33	修道院長から露風夫妻とも受洗、露風の霊名はパウロ、夫人はモニカ。『修道院詩集第1巻・信仰の曙』刊行。
1926	15	37	東北地方巡講の途次、青森県三本木町で、長詩篇「天父と閑古鳥」を作って愛妻モニカに贈る。『修道院詩集第2巻・神と人』、童謡集『お日さま』『小鳥の友』刊行。
1927	昭和 2	38	ローマ教皇から、勲四等の勲記、シュバリエ・サン・セプルクル勲章と、ホーリーナイトの称号を受ける。
1928	3	39	自伝『我が歩める道』刊行。
1940	15	51	龍野公園聚遠亭池畔に、「ふるさとの」詩碑が建立される。
1958	33	69	龍野市名誉市民となる。
1963	38	74	紫綬褒章を受賞。その前年母かた死去、91才。
1964	39	75	12月21日午前9時15分頃、交通事故に遭い、12月29日死去。勲四等、瑞宝章を追贈される。
1956	40		5月28日、龍野公園に「赤とんぼ」歌曲が建立される。